

## 平成27年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

本学園で学ぶ生徒が、より良い人間関係と充実した教育環境のもとで、その人格・個性が尊重され、学習や行事・活動を通して確かな学力と社会性を身につけ、豊かな人間性を育み、やがて社会の中で活躍し未来を切り拓いていく力を培う教育を実践する。

- 〔1〕 個性を伸ばし自らの成長に向けて努力する人を育てる。
- 〔2〕 自主的に何事にも積極的に取り組む人を育てる。
- 〔3〕 実践を通して知識・技能を一層深く学ぶ人を育てる。
- 〔4〕 礼儀を身につけより良い人間関係を築こうとする心豊かな人を育てる。

### 2 中期的目標

#### 【1】建学の精神と教育理念にもとづく学校経営計画及び教育計画を策定し実践する。

- (1) あらゆる教育計画・活動に本校の教育理念・方針の一層の浸透を図る。  
ア 学年・校務分掌等の教育計画を改善し、理念・方針を浸透させる。 ※平成28年度教職員自己評価点を0.4改善4.4とする。
- (2) 教育計画の実践に向け教職員の資質向上を図り学校運営体制を改善・整備する。  
ア 教職員の資質・能力の向上を図るために研修内容の充実を図る。 ※平成28年度教職員自己評価点を0.4改善の4.0とする。  
イ 組織の連携及び会議の機能を強化し、課題に対してチームで対応する。 ※平成28年度教職員自己評価点を0.4改善の4.0とする。
- (3) 総合学園としての教育環境を有効に活用した学内連携教育を実施する。  
ア 総合学園としての教育環境を活用し、高大・高短等の連携教育を実施する。 ※平成28年度教職員自己評価点を4.0とする。

#### 【2】18歳の高校生に求められる学力及び態度・諸能力の基盤を養成する。

- (1) 学習指導において、主体的・協働的な学びを実践する。  
ア 基礎的知識の習得及び思考力・判断力・表現力の養成のために授業改善を行う。 ※平成28年度生徒評価点を0.3改善の3.8とする。  
イ 対話力や課題発見・解決力等を養うための主体的・協働的な授業を行う。 ※平成28年度教職員自己評価点を3.5とする。
- (2) 生徒指導において、集団・社会に貢献できる態度・実行力を身につける。  
ア すべての教育活動を通して規律ある生活態度や礼儀・マナーを身につける。 ※平成28年度生徒評価点を0.4改善の4.0とする。  
イ 活動・行事等を通して協調性・責任感・行動力などの社会性を身につける。 ※平成28年度生徒評価点を0.4改善の4.0とする。
- (3) 部活動を通して自らの心身を鍛え社会性を獲得する。  
ア 技能を磨き目標に向けて努力し続ける中で心身を鍛える。 ※平成28年度教職員自己評価点を0.3改善の4.3とする。  
イ 仲間と共に目標の実現に向けて活動する中で社会性を身につける。 ※平成28年度教職員自己評価点を0.3改善の4.0とする。
- (4) あらゆる教育活動において、良き市民、社会形成者としての態度・能力の基盤を養う。  
ア 民主主義社会を担う主権者としての自覚を促す教育を実施する。 ※平成28年度教職員自己評価点を3.8とする。  
イ 将来の社会を担う健全な市民となれるよう市民性を育む教育を実施する。 ※平成28年度教職員自己評価点を3.8とする。
- (5) 国際交流を推進し多様な文化を理解し共生できる国際的資質を育む。  
ア 短期・長期の留学派遣及び海外から研修生・留学生の受入れを実施する。 ※平成28年度教職員自己評価点を3.8とする。  
イ 英語科およびあらゆる教育活動を通して国際理解教育を推進する。 ※平成28年度教職員自己評価点を3.8とする。

#### 【3】人としての在り方生き方を考え、他者と共により良く生きていくための人権意識を養う。

- (1) 自己及び他者を尊重し共により良く生きようとする態度を養う。  
ア 各学年で人権学習を実施し人権問題への理解を深め、解決に向けた態度を身につける。 ※平成28年度生徒評価点を4.0とする。  
イ 学級生活や活動を通して仲間と共に調和して生活しようとする態度を養う。 ※平成28年度生徒評価点を0.2改善の4.1とする。
- (2) 生徒が抱えている課題に対して、そのニーズに応じたきめ細かい相談・支援を行う。  
ア 学習・生活・心身等の課題を抱える生徒に丁寧に対応し支援を行う。 ※平成28年度教職員自己評価点を0.2改善の4.2とする。  
イ 生徒のニーズを把握し、教職員が連携して適切な特別支援教育を実施する。 ※平成28年度教職員自己評価点を4.0とする。

#### 【4】進路目標の実現に向けて未来を切り拓く力を養うキャリア教育を実施する。

- (1) 自分を見つめ、未来に目標を持ち、それを実現させるための能力を養う。  
ア 自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習を実施する。 ※平成28年度生徒自己評価点を0.5改善の4.2とする。  
イ 上級学校や職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施する。 ※平成28年度生徒自己評価点を4.0とする。
- (2) 生徒の希望・目標を実現させることができるよう進路相談・支援を行う。  
ア 進路選択に必要な情報を提供し、目標設定や実現に向けた相談・助言を行う。 ※平成28年度生徒自己評価点を0.5改善の3.8とする。  
イ 放課後や長期休業期間を含む進路指導体制を整備し講習等を実施する。 ※平成28年度教職員自己評価点を4.0とする。

#### 【5】安心・安全な社会を築くための態度と行動力を養う。

- (1) 防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施する。  
ア 防災・減災に向けた行動が取れるよう状況に応じた訓練を実施する。 ※平成28年度教職員自己評価点を0.3改善の4.5とする。  
イ 自然災害に対する科学的理解を深め、防災意識を高める。 ※平成28年度教職員自己評価点を4.0とする。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年3月実施分]	学校協議会からの意見
<p>評価項目：教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行った。            評価方法：各項目について、5段階評価で行った。            5：その通りである 4：どちらかといえばその通りである            3：どちらともいえない 2：どちらかといえば違う 1：まったく違う</p> <p>【1】 生徒用アンケートの分析</p> <p>1. 全学年の各項目の評価を分析</p> <p>①評価が高い項目：            クラブ・特設科が活発 4.0, 文化祭・体育会など行事が活発 3.8            友人関係がよい 3.9, 制服がよい 4.1, 学校の設備・施設・美化・清掃はよい 3.8            ◇クラブ活動や行事が活発で、友達と仲良く学校生活を送っている様子が伺える。            ◇明るく元気で活気のある学校であるのが学園の特徴と捉えている。</p> <p>②評価が低い項目：            授業は落ち着いて分かりやすい 3.3, 生活面での規則は適切である 3.4            規則はよく守られている 3.3 先生・生徒の関係は良い 3.3            悩みを先生に相談しやすい 3.2 学校の情報はよく伝えられている 3.3            ◇授業は静かに集中して取り組めるよう、また、分かりやすい授業をめざして努力・工夫する必要がある。            ◇日常の授業や活動を通して、教員と生徒との信頼関係が深まるような指導のあり方を工夫する必要がある。            ◇生徒への指導面では、生徒の理解や納得を得るように充分説明して指導するようにしなければならない。</p> <p>2. 高校としてどの項目を重点課題として改善するか。            評価の低い項目を重点的に改善しなければならない。一人ひとりを大切にする教育を推進し、品位の向上、学習・進路面の丁寧な指導、社会性の育成など、生徒が成長できる指導を実践していかなければならない。</p> <p>3. 前年度との比較            前年度と比較して、学習・進路・教育相談等5項目で評価を下げている。今後より一層改善・努力を行っていかなければならない。</p> <p>④入学して良かった、成長できるという項目は保護者の方がかなり高い。            ⑤先生と生徒の関係、先生と相談しやすいという項目は生徒の方が低い。</p> <p>【2】 保護者用アンケートの分析</p> <p>1. 各項目のアンケート結果を生徒の結果と比較しつつ保護者の評価を分析する。            ①保護者からは生徒に比べると多くの項目でより高い評価を得ている。            ②生徒に比べてやや好意的な評価を受けていると思われるが、前回は下回る評価が多数に及んだことは大きな課題となった。厳粛に受け止めなければならない。</p> <p>2. 保護者がどの項目を高く、どの項目を低く評価しているか。            ①クラブ活動・行事・友人関係・制服・施設・美化等について評価が高く、入学させて良かったとの評価である。            ②授業・教科指導・進路指導・生徒指導・PTA活動等についての評価は必ずしも高くない。</p> <p>3. 生徒と保護者の結果が異なる項目について考える。            ①学校の雰囲気は全体的に良いという項目は、保護者の方がかなり高い。            ②学校からの予定や連絡事項は、今後もメール配信システム「ミマモルメ」のさらなる活用を検討していく。            ③学校からの情報発信の一つとして、ホームページの充実に努める。</p> <p>4. 保護者が高校に何を求めているかを考え、その対策を立てる。            ①充実した授業を行い、学力を高めること。            ②規則を守り規律ある高校生活の実現を図ること。            ③子どもにとって信頼でき、相談しやすい教員であること。            ④進路指導を充実させ、進路目標を実現させること。</p> <p>5. 前年度との比較            多数の項目で評価が低くなったことは、真摯に受けとめなければならない。全教員が評価の回復に向けての取り組みを強化することが肝要である。</p> <p>【3】 アンケート分析の活用と学校改革            高校教育の目標は自ら学び、より良い人間関係を形成し、社会に貢献しようとする人を育成することである。その目標を実現するために、学習と生活の基礎・基本をしっかりと身につけさせ、生徒の成長を促すために、つぎの課題に取り組むことが大切である。            ①規律ある学校生活の実現と品位のある生徒の育成            ②充実した分かりやすい授業と人間性を豊かに育てる活動            ③将来の目標を見つけ出し生徒の進路目標を実現させる指導</p>	<p>&lt;学校評価委員会を開催&gt;            H28年5月12日実施</p> <p>○創立90周年を次年度迎えるに当たり、様々な機会に広報されているので、理念や方針は学年があがるに応じて理解されている。90周年時には、種々の行事等で更なる浸透を目指して欲しい。</p> <p>○過去の数値と比べて、全体的に評価は上っている。進路指導も的確である。しかし生徒指導面については、生徒数が多いのか、幾分きびしく自己評価しているように思われる。生徒の気持ちに寄り添いたいという教員の思いからなのかと解釈している。校外での生徒達の服装・態度にまで及ぶ指導がなされることを期待する。</p> <p>○家庭との連絡・連携については4.2と高い数値が続いており安心だが、もっとホームページの更新をし、活用されると良いと思う。</p> <p>○教員間の連携のとれた、きめ細かい指導により、退学者がとて少ない学校となっている。この伝統を守って欲しい。</p>



3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
【1】経営計画及び教育理念に基づく学校	(1) 理念・方針にもとづく教育計画の再構築	(1) ア学年・校務分掌等の教育計画を改善（学年会議・分掌会議で策定）	(1) ア平成27年度教職員自己評価点を0.2改善4.2とする。 *学年会議・分掌会議で協議・見直し・改善計画策定	(1) ア、自己評価は3.9にとどまった。 ○本校の教育理念・方針は現在の教育活動においても根幹となる重要な指針であり、日々の教育実践において活かされるべきものであるとの理解を深めたい。 ○運営委員会・学年会議・分掌会議で一層の理解・浸透を図りたい。
	(2) 教職員の資質向上と学校運営体制を改善・整備	(2) ア教職員研修の充実を図る（教務部を中心に企画。年2回実施）	(2) ア平成27年度教職員自己評価点を0.2改善の3.8とする。 *教務部を中心に研修内容を計画。教職員の満足度向上。年2回実施。	(2) ア、自己評価は3.5にとどまった。 ○学力向上・キャリア教育・特別支援教育・いじめ対策・高大接続等、教育課題は多い。課題の多さに比して研修機会が少ないことに対する問題意識が評価に表れている。日々の課題対応のなかで小さな研修を重ねたい。 ○今年度は6月に在日外国人に係る問題についての人権研修と、8月に特別支援教育に係る研修を実施した。
【2】高校生としての学力及び態度・諸能力の基盤養成	(1) 主体的・能動的な学びの実践	(1) ア基本的な知識・技能の習得のための授業改善を行う（教務部・教科会議を中心に改善） イ思考力・判断力・表現力の養成のための授業改善を行う（教務部・教科会議を中心に改善）	(1) ア平成27年度生徒評価点を0.2改善の3.7とする。  イ平成27年度生徒評価点を0.2改善の3.7とする。 *教科担当者の実践と報告により更なる授業改善を図る	(1) ア、生徒評価は3.5であった。教員の自己評価は3.9であった。教員の努力にもかかわらず生徒の評価は厳しい。更なる改善が必要。 ○次年度は教科指導委員会・各教科で授業改善計画を立てて実施したい。 イ、生徒評価は3.5であった。教員自己評価は3.6であった。 ○目標達成のために教員の授業改善に向けた一層の工夫・努力が求められる。 ○教科指導委員会・各教科の活性化と実践を推進したい。
	(2) 集団・社会に貢献できる態度・実行力を養う	(2) ア基本的生活態度を改善する（生徒指導部・学年の連携で指導） イ活動・行事等を通して社会性を身につける（生徒指導部・学年の連携で指導）	(2) ア平成27年度生徒評価点を0.2改善の3.8とする。  イ平成27年度生徒評価点を0.2改善の3.8とする。 *生徒指導部・学年の中間報告と課題の更なる指導強化	(2) ア、生徒評価は3.6であった。教員評価は4.0であった。 ○教員の熱心な指導が、生徒に十分浸透していない点をさらに工夫して指導を改善する。 イ、生徒評価は3.8であった。教員評価は3.9であった。 ○学年を越えた活動・行事の中で生徒の主体性・社会性が徐々に育っている。 ○中間報告をふまえて指導を強化した。
	(3) 部活動を通して心身の鍛錬	(3) ア自らの心身を鍛える（生徒指導部・部活動顧問で指導）	(3) ア平成27年度教職員自己評価点を0.2改善の4.2とする。 *部活動を通じた生徒の育成を生徒指導部・部活動顧問を中心に指導	(3) ア、生徒評価は4.0であった。教員評価は4.2であった。 ○技術向上、心身鍛錬、社会性の獲得など部活動の意義をふまえ一層の充実を図りたい。
	(4) 市民性を育む教育	(4) ア市民性・主権者意識を育む教育を実施する（教務部・地歴公民科・生徒指導部等で指導）	(4) ア平成27年度教職員自己評価点を3.6とする。 *18歳選挙権を契機に市民意識の向上と責任ある態度を養う	(4) ア、教員評価は2.8であった。 ○主権者教育をどのように実施すべきかの研修や指導体制が構築できていない。 ○地歴公民科の指導の他、HR活動や総合学習、自治会活動等で主権者意識を養いたい。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
【3】生きていくための人権感覚 他者とともにより良く	(1) 自己・他者が共により良く生きようとする態度を養う  (2) 一人ひとりのニーズに応じた指導	(1) ア人権問題への適切な理解と態度を身につける学習を実施する(人権教育部・生徒指導部・学年で指導)  (2) ア様々な課題を抱える生徒一人ひとりに丁寧に対応し支援を行う(学年・学級及び関係部署の連携で支援) イ生徒のニーズを把握し教職員が連携して特別支援教育を実施する(特別支援教育委員会を中心に支援)	(1) ア平成27年度生徒評価点を3.8とする。 *学年別にテーマを設定し年間3回実施  (2) ア平成27年度生徒評価点を0.3改善の3.5とする。  イ平成27年度教職員自己評価点を3.8とする。 *学年・学級・特別支援教育委員会及び関係部署の連携で支援	(1) ア、教員評価は3.8であった。 ○生徒は、1年「身近な人権」2年「戦争と平和」3年「在日外国人の人権」をテーマに、1学期は人権映画の鑑賞を、2学期は講演とLHRで人権学習を実施した。生徒に感想・意見を書いてもらった。人権問題に関心を持ちよく理解しようとしている。次年度は生徒アンケートを取りたい。  (2) ア、生徒評価は3.2であった。教員評価は4.0であった。 ○教員は一人ひとりに丁寧に向き合っていると評価、生徒は十分ではないと感じている。更にきめ細やかな支援・対応が求められる。 イ、教員評価は3.7であった。 ○課題のある生徒の把握と適切な支援・対応に努めた。個別の指導計画等の作成に努めたい。 ○夏期に講演・グループワークの研修を実施し、合理的配慮等の理解を深めた。
【4】未来を切り拓くキャリア教育・ 進路指導	(1) 未来の目標を実現する能力を養う  (2) 生徒の目標を実現させる進路相談・支援	(1) ア自分の興味・関心を知り進路目標を考える学習を行う(進路指導部・キャリア教育委員会を中心に指導)  イ職業に対する関心・意欲を高める体験的学習を実施する(進路指導部・キャリア教育委員会を中心に指導)  (2) ア進路情報を提供し、相談・助言を行う(進路指導部・学年・学級で指導)  イ放課後・休業中の講習を実施し、進路指導体制を整備する(進路指導部を中心に指導)	(1) ア平成27年度生徒自己評価点を0.3改善の4.0とする。  イ平成27年度生徒自己評価点を3.8とする。 *進路指導部・キャリア教育委員会を中心に学年別に年間3回以上実施 *キャリア学習を総合学習の時間で学年別に系統的・発展的に実施  (2) ア平成27年度生徒自己評価点を0.3改善の3.6とする。  イ平成27年度教職員自己評価点を3.8とする。 *進学講習を夏期・冬期・春期に実施、就職ガイダンスを3年で10回実施	(1) ア、生徒評価は3.7であった。教員評価は3.9であった。 ○学年に応じて系統的な進路説明会・ガイダンスを実施した。全体的・概要的な説明の他に個々の目標に対応した説明・相談が求められる。 イ、生徒評価は3.7であった。教員評価は3.8であった。 ○各学年で希望者に学外で体験的学習の機会を設けた。職種・回数・人数等をふまえ、より幅広い分野の体験機会を提供したい。 ○系統的なキャリア学習は2年まで実施した。次年度3年でも実施したい。  (2) ア、生徒評価は3.5であった。教員評価は4.2であった。 ○教員の丁寧な対応が個々の生徒に十分には届いていない所を改善する必要がある。 イ、教員評価は3.9であった。 ○進学・就職講習等を予定通り実施した。生徒のニーズに応じ、進路目標の実現につながる内容に改善を加える。
【5】築くための態度と行動力 安心・安全な社会を	(1) 防災・減災に向けた防災教育・訓練を実施	(1) ア防災・減災に向けた訓練を実施する(生徒指導部・防災教育委員会を中心に指導)	(1) ア平成27年度教職員自己評価点を0.2改善の4.4とする。 *防災教育委員会を中心に状況に応じた訓練を年2回実施	(1) ア、教員評価は3.9であった。 ○計画通り実施した。従来の地震・火災避難訓練内容を少し改善したものの、予想される災害に対してはまだ不十分と評価した。 ○大地震による倒壊、火災、交通・ライフラインの寸断等を想定した防災教育・訓練が必要である。